

# 1. 評価報告概要表

作成日 2008年1月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072800442
法人名	有限会社サイタハウジング
事業所名	グループホーム「はるかぜ」
所在地	伊勢崎市田部井町3-2734-4 (電話) 0270-70-5711

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年10月28日

## 【情報提供票より】(平成20年 10月 2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人	常勤換算7.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄鋼系組立構造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	熱水費 1日500円・暖房費(12~3月)1日15	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円

### (4) 利用者の概要( 10月 2日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	斉藤内科医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農業をしていた入居者と職員で野菜の栽培を行い、収穫された野菜を皆で頂いたり、梅干作りを楽しみにしている入居者と梅干作りをしたり、裁縫を得意とする入居者にはズボンの裾上げや雑巾を縫ってもらう等、一人ひとりの生活歴を尊重するとともに自立度に応じ本人の得意、希望、思いを日常生活の中に活かした介護がされている。職員間の関係は良好であり、全職員でつくりあげた理念は地域との関係性を大切にしており、保育園や幼稚園の子どもとの交流や地域の行事に参加する等交流に努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果は職員全員に伝達され、話し合いの場を設け、「改善計画シート」を作成し計画的に改善している。鍵をかけない工夫については、開錠時間を決め鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、理念については地域密着型サービスの実現に向けた方向性を具体的に全職員で話し合い、理念の見直しをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が一緒に検討し評価している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、区長、市担当者、家族、地域の介護支援専門員、職員のメンバーで構成されている。会議は、事業・活動報告に偏り、災害時の協体制やボランティアの受け入れ等に関する議論がされず、今後に期待するところである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「はるかぜ便り」、月次報告書を個別に作成して家族へ毎月送付し、健康状態や暮らしぶり等を伝えている。また金銭管理は、入居者自らで出納帳に記入し、家族と職員によって確認されている。運営推進会議や面会時に家族の意見、苦情等を聞くように努めているが、対面や言葉に限らず日常的に意見等が得られような工夫を期待する。
重点項目④	回覧板を活用し、地域の人々に事業所の所在や入居者の生活を伝えている。近所の保育園児が事業所へ遊びに来り、幼稚園の運動会に招待されたり、地域の夏祭りに参加したり、文化祭に出品する等、地域の人々との交流を積極的に行っている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を受け、全職員により理念の見直しをしている。既存の方針に、地域との関係性が重視された理念に改善されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員の話し合いで決めた理念であり、日々のケアの中で理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々に、事業所の所在や利用者の様子を伝えるために回覧版を活用している。近所の保育園児が事業所へ遊びに来り、幼稚園の運動会に招待されたり、地域の夏祭りに参加したり、文化祭に出品する等、地域の人々との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と職員が一緒に検討し、評価している。また、前回の評価結果は職員全員に伝達され、話し合いの場を設け、「改善計画シート」を作成し計画的に改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、区長、市担当者(2名)、家族(順番制)、職員、地域の介護支援専門員の出席により開催されている。会議の内容は、一方的な報告にとどまり参加メンバーからの意見等が少ない状況である。	○	会議では報告だけにとどまらず、話し合いを行いサービスの向上に活かすような取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所に「はるかぜ便り」を毎回送付し、ホームの様子を伝えている。また市担当者からの入居の相談や社会福祉協議会からの見学依頼等相互関係は良好であり、情報提供を行ったり、分からないことは気軽に電話で聞き助言を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「はるかぜ便り」、月次報告書を個別に作成して毎月送付し、健康や暮らしぶり等を伝えている。また金銭については、入居者自らが(1万円～3千円程)管理しており、小遣帳をつけ出納の確認を家族と職員が一緒にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族の意見や家族来訪時の担当職員による家族との談話の中から意見等をくみ取り、参考にしている。また、苦情相談窓口の設置や外部の相談窓口の連絡先を紹介している。	○	今後も家族等が言いやすい雰囲気づくりに努め、また来訪の少ない家族や直接言い難い家族等を考慮し、いろいろな意見の表出方法を検討し、意見等を運営に活かせることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、併設事業所への職員の異動は行われていない。また離職者も少なく、馴染みの関係を継続しつつ馴染みの職員による支援が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護に関する研修を、職員の経験年数等に応じて受講している。また職員自らが希望する研修や資格取得の学習についても、運営者の理解と職員間の協力が得られ、働きながら学べる配慮がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回、グループホームの交換研修に参加している。また併設の居宅介護支援事業所やデイサービスセンターを通じて、地域の介護支援専門員や福祉用具事業者との交流する機会があり、情報・意見交換をすることでサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や1日体験を勧め、事業所の生活や雰囲気を感じてもらい本人と家族が納得した上で入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、料理の味付けや年中行事の方法等を入居者から教えて頂いたり、かかし祭りに出展する作品と一緒に作る等共に支えあう関係で過ごす努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初にアセスメントを行い、趣味や特技を聞き出している。また、日々の暮らしの中から、その人の思いを汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の様子や家族の意見、職員からの情報を基に介護支援専門員が計画立案をしている。立案された介護計画は、会議で全職員により検討されている。検討された介護計画は、家族、本人の承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しをしている。また入居者の状態に応じ、その都度話し合いの場を設け再検討し、現状に即したプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスセンターの機能訓練を使用したり、大浴室を使い皆で入浴することもある。また家族の代わりに医療機関の受診や美容院の送迎、買物等の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に受診している入居者がほとんどであり、通院の送迎は主に家族が行っている。また入居者の希望や状態に応じ、往診による支援も受けられる。受診時には、主治医に日頃の入居者の状態や変化等を情報提供している。主治医からは、書面や電話による報告がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、終末期ケアや看取りについて事業所の方針を家族、本人に伝えている。終末期ケアは行わないことが基本であるが、家族や本人の希望があり、支援に向けた環境、準備が整えられれば、最期まで入居者と共に過ごすことを全職員で話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に対する言葉かけは丁寧であり、優しい対応である。個人情報に関する記録類は、外来者の目につかないよう書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決め事を優先させず、入居者の言葉の中から希望を汲み取り、希望を最優先している。例えば、「畑へ行きたい」と言う入居者には、体調が良ければ希望にそって支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理当番の職員と一緒に、入居者が味付け、盛り付け、テーブルを拭く等入居者の好みや力を活かした食事の準備や後片づけをしている。食事は、入居者と一緒に摂るのは検食係りの職員1名だけであり、入居者と職員とが一緒に食事を楽めるようには考えられていない。	○	職員の勤務体制やその日の係りによって役割・行動が決められているものと思うが、入居者と職員と一緒に食事を楽めることの工夫を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している	基本的には週3回、午前10時～午後2時頃の時間帯で入浴を行っている。しかし、希望を取り入れ朝風呂や毎日入浴する入居者もいる。入浴を拒否される入居者には無理強いせず、声かけやタイミングを合わせ、入浴を楽めるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前から裁縫が得意である入居者には、ズボンの裾上げや雑巾を縫ってもらったり、樹木や花を好み庭の手入れをしていた入居者には、ホームの畑の草むしりや野菜づくりを手伝ってもらう等これまでの生活を活かした支援が行われている。また、洗濯物をたたんだり、掃除等一人ひとりの力量に応じて行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の買い物や散歩、美容院に行く等、入居者の希望する外出への支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、前回調査の改善として日中10時～15時の間は開錠している。また外出傾向の入居者には、ホームの庭やホーム周辺の散歩を職員と一緒にやっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署へ「はるかぜ便り」を送付し、日ごろから情報交換をしている。年2回の避難訓練は、消防士による避難方法、消火活動等であるが、近隣住民の参加や協同には至っていない。また、災害時の食料として、缶詰や水等が備蓄されている。	○	運営推進会議等を活かし、近隣住民に協力を依頼するなど協力体制が作れるように努力されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夕食は外食サービスを利用している。その外食サービスのメニュー表を参考に、職員(調理師)が1日の献立を立てている。1日の総カロリーの目安は、1,200～1,400カロリーである。また一人ひとりの食事、水分の摂取量は記録され、入居者の状態に応じ、食事形態は食べやすく粥食や刻み食で提供する等工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は広々とし、椅子やテーブル、ソファ、畳を敷いた3畳程の所があり、思い思い安心して過ごせる場の確保がされている。また、生花や絵画、手作りの貼り絵、写真等が飾られ、落ち着いて過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、使い慣れた家具類、小物類や鉢植え等の私物の持ち込みを家族に働きかけている。居室は個々に私物が持ち込まれ、居心地良く過ごせるようになっていく。		